

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601008	事業の開始年月日	平成28年11月1日	
		指定年月日	平成28年11月1日	
法人名	株式会社エクシオジャパン			
事業所名	アクア東林グループホーム			
所在地	(252-0312)			
	神奈川県相模原市南区相南1-7-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和1年8月25日	評価結果 市町村受理日	令和1年11月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄小田急江ノ島線東林間駅より徒歩7分の閑静住宅地に立地。近隣には緑の楽しめる水道道路や東林間神社があります。「暮らしの場」としておだやかで明るく過ごせる時間・空間をめざしています。経験のないスタッフもおりますが、日々のチームプレーや教育研修を通じて、ご利用者に寄り沿い、支えることのできる「よく見て、考えて、動ける」職員集団を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和1年9月26日	評価機関 評価決定日	令和1年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急江ノ島線「東林間駅」から徒歩約7分の静かな住宅地に立地し、近くには買い物に便利な商店街、散歩に適した横浜水道道と緑道、東林間神社があります。

<優れている点>

施設目標に加えて、7月に「ご入居者の自尊心を大切にし、その人らしい生活や人生を送れるように」「笑顔の絶えない住みやすく過ごしやすい環境を創る」「認知症高齢者介護に関わる知識・技術の向上に努め、心の通うサービスを提供する」を事業所が目指す独自の理念として作成しています。管理者は理念を浸透させ、具現化していくように努め、職員は理念を共有し、実践に繋げています。運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地域の代表者、民生委員、高齢者支援センター職員、利用者・家族などが出席して意見交換を行い、事業所のサービス内容の開示に努めています。医療面では、往診医と24時間オンコールでつながる看護師が連携し、医療の受診や健康相談ができる体制にあります。

<工夫点>

年度初めに、花見や七夕、夏祭り、クリスマス会、いちご狩り、じゃがいも堀りなどの行事、運営推進会議の開催、高齢者虐待や感染症対策などの施設内研修、オーボエや歌唱のボランティアの来訪などを一覧表にまとめ、一目で分かりやすい年間事業計画表を作成しています。毎月、写真入りの近況報告「アクア東林だより」を家族に送付し、家族の安心につなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人経営理念を毎朝礼で確認唱和、施設運営に則した訓話実施。施設運営理念検討作業中。	今年度施設目標「見て、聞いて、考える介護の実践」を職員と作成しています。7月に管理者が中心となって独自の理念を作成し、玄関に掲示しています。管理者は理念の浸透に努め、職員は日頃の介護・介助の中で実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩、外気浴の際や、窓越し等、ご利用者はじめスタッフにもこちらからの挨拶を奨励している。災害時の近隣マンパワー協力の依頼、納涼祭への参加呼びかけ、地域清掃実施。	自治会に加入し、正月には地元の神社へ初詣に行き、地域の月1回の道路清掃にも参加しています。事業所の納涼祭には地域へ案内状を配布して、子ども達と一緒にスイカ割りやゲームを楽しんでいます。オーボエや歌唱のボランティアが来訪しています。	地域とのつながりを一層大切にするために、地域の幼稚園や保育園児の歌や踊りを楽しんだり、中学生や高校生の社会体験を受け入れるなどの交流を促進することも期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、トピックな題材を提供し、行政サポートを受けるためのアドバイス等をしている。行政の介護駆け込み寺的ネットワーク拠点に加入。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会や民生委員のご参加をいただけるようになり、地域イベントへの参加や防災時の協力等、情報や意見の交換ができるようになった。災害時の拠点としての役割期待されている。	会議は2ヶ月ごとに、自治会長、民生委員、東林第2高齢者支援センター職員、利用者家族の参加を得て開催し、意見交換を行っています。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の結果を報告して話し合い、サービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設マンズリー届け等の際、適宜情報提供、相談している。	管理者は相模原市高齢政策課に業務上の問題点などを報告し、相談しています。家族に代わって介護保険の認定更新の手続きを申請し、立ち会いもしています。管理者は市内の他の事業所見学会にも参加し、情報収集と協力関係の連携に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用による。玄関に関しては、日常生活同レベルの施錠実施。声かけにて開放。身体拘束防止の運用において、個人ならびにチームの力量に不十分な面もある。	身体拘束防止委員会があり、各階のフロア長と管理者が身体拘束の事例を基に話し合っています。職員にはミーティング時にフィードバックし、正しい理解に努めています。玄関は防犯上と安全面から、家族の了解を得て施錠しています。帰宅願望の人には日頃より散歩をするなどの支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。事案に対し、看過黙認事例が発生、再度教育研修実施ならびにヒアリング実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政発パンフ等を施設にでも配布、ご利用希望の際には最新情報にアクセス、ご案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等でご紹介したりもしている。ご意見箱を設置。	運営推進会議やクリスマス、利用者の誕生日会などの家族の来訪時に、利用者の状況を説明し、家族の意見や要望を聞いて運営に反映しています。家族から利用者の入浴について、きちんと入浴できるように支援して欲しいという要望があり努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。	管理者は月1回のフロア会議、朝・夕の申し送り時に職員から意見や要望を聞いて運営面に反映しています。職員から、食事のメニューにパン食の回数を増やして欲しい旨の要望があり、外部業者と検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守。モチベーションアップ等にさらに考えたり、話合える時間や環境づくりが必要と考える。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の回想ごとに年間を通じた研修を実施。資格取得に対する法人援助の活用、研修先情報を広報している。人員不足により研修実施できない月が発生した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人他施設職員との会合・研修・イベント、市内の業態管理者連絡会や行政主導研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なご様子を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	マンスリーやイベント等のお知らせをはじめ、定期的に電話でご様子をお知らせして、来所を促している。	家族の協力により、馴染みの美容院や墓参り、外食に出かけています。利用者の知人や友人が来訪し、居室やリビングで歓談する時は湯茶の接待をしています。年賀状が利用者宛に届き、返信を書く人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行。	職員は利用者の日常的な言葉、会話、行動から意向を把握するように努めています。家族から情報を得たり、生活歴も参考にしています。意向を把握しにくい利用者には、職員と一対一となる入浴や散歩時に話を聞いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報、ケアプラン等の情報環境整備によりスタッフがご利用者情報を共有しやすいよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。「身」に対し、「心」への洞察がまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状、家族の意向確認や意見把握の機会が少ない。スタッフの介護計画に対する認識や意識、関心が低い。カンファレンスの形態や頻度を改編中。	利用者や家族の意向、医師と看護師の意見、毎日の生活記録などを基に、ケアカンファレンスを行い、短期3ヶ月、長期6ヶ月の介護計画を作成しています。介護計画は、フロア会議やケアカンファレンスでモニタリングし通常3ヶ月ごとに見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書き方はじめ視点、意義を日常的な点検指導教育するとともに、スタッフ間の情報共有手段やツールの改善を図っている。記録とケアプランの関連の関係性を明らかにする教育研修を定期的に行っている。記録書式を改定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクや趣味分野拡充等、スタッフならびにボランティアに依存度高い。運営法人他業態の情報や資産の共有活用。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行政ボランティア受入協力機関登録完了、体制づくりはできたが、活用が断片的。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。	協力医の内科医が月2回、歯科医は希望に応じて月1回往診診療しています。入居前からのかかりつけ医に継続して受診している人もいます。専任の看護師が週1回、健康管理しています。看護師とは24時間オンコールです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話にて報告、指示受にて対応。状況報告方法や必要機材物品の所在等の理解把握を励行。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院Sw等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付しているが、実際に適応事例がまだ発生していない。	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を家族に説明し、同意を得ています。急変時には家族の意思を確認し、寄り添って対応します。看取りの経験はありませんが、看取りと診断された利用者が回復した事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めているが、定期的な教育・訓練量が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、教育ならびに訓練の機会を創設。運営推進会議で地域との防災に関する互助の意見交換等を行っている。近隣住戸に火災時等の援助協力要請。	年2回、日中と夜間想定防災避難訓練を消防署の指導により実施しています。避難時は防火扉で火煙から防御された場所に水平移動の一次避難をしています。非常災害用の食料と飲料水は3日分備蓄し、「災害対策用品備蓄リスト」で管理をしています。	非常災害用の備蓄品は3日分備蓄していますが、相模原市の指導では、7日分程度に増量を指導されています。今後の検討も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申送りや指導、教育研修等を通じ、画的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。	人格を尊重し、その人に合わせた対応を心がけています。接遇マナーは管理者が申し送り時などにケーススタディで指導したり、気づきがあった場合は職員間で注意し合っています。個人情報の書類は鍵付きキャビネットに保管し、電子情報はパスワード管理をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。詳細は施設長がご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事をする側のペースや都合が支配的になる可能性は常にある。個人の意向を全否定するのではなく、他利用者やスタッフまで含めた集団での生活であることに思いをめぐらせていただけるような声かけを励行。その日の意向を聞くこと自体はあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼間と夜間就寝時の更衣、衣服選びをご利用者とできるよう励行。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの説明や話題による食欲増進を励行している。食事準備に参加していただくことによっても食欲増進が期待できるが、展開できていない。	献立表と食材は外部業者から配送され、職員が調理をしています。誕生日会、老人会、クリスマス会、正月などの行事では特別食を楽しんでいます。法人の畑で利用者が収穫したじゃがいもやいちごも楽しんでいます。配膳、食器拭き、野菜の仕分けを手伝う利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食物形態等にも考慮して対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行しているが、口腔内のチェックがまだ不十分。訪問診療歯科の恒常のご利用が少人数なので、口腔点検等のスキルアップしたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導、ポータブルトイレ活用にて失禁減少に努めている。排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。	排泄チェック表から排泄の間隔を把握し、失禁のないように声かけし、トイレ誘導しています。トイレ誘導の声かけや、午前中の牛乳の摂取で、夜間の失禁を減らすことが出来ています。排泄状況に合わせてポータブルトイレを使用する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者ごと入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応。	入浴は週2回を基本とし、ゆず湯や菖蒲湯を楽しみ、保湿剤を使って肌の乾燥を防止しています。同性介助の要望があれば対応しています。入浴中、職員と会話が弾んでいます。入浴を嫌がる利用者には、日時や人を変えて誘っています。1階には機械浴があります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者それぞれの状況に合わせて対応。布団干しや空気入れ替えを励行。夜間トイレ誘導頻度等も日々、状況に合わせて対応。各フロアの音の響きに留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習励行。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備。変更時には変更メモ発信。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。全体でのレク以外に個人生活史等の把握から個別関心事や経験に基づいたレク等の提案が不十分。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応。フロア状況に応じて散歩実施。地域祭礼や法人経営の畑での作物収穫、法人全体での外部施設での運動会や旅行に参加。	天気の良い日には、近くの緑道や神社に散歩に出かけ、地域の人と挨拶を交わしています。コンビニエンスストアへ買い物に行くこともあります。地域の神社の初詣、阿波踊り、祭りの見物、法人の畑の芋掘りにも行っています。玄関前の駐車場で椅子に座り、外気浴もしています	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品メモ作成による依頼で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。郵便も信書の自由・秘密保障を基本に、ご本人の状況を考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。	リビングや廊下は明るく広く、ゆったりとしています。壁には利用者の笑顔が載っている「東林たより」や毎月テーマに合わせた飾り物を飾っています。各フロアに3ヶ所あるトイレはすべて車いす対応で、廊下は車いすがすれ違いできる幅があり、動線が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。	居室はエアコン、クローゼットが備え付けです。利用者はベッド、テレビ、仏壇、机、椅子などを持ち込み、家族や趣味のプロ野球の選手の写真、教え子から贈られた感謝状など、利用者の大切な思い出を飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。		

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人経営理念を毎朝礼で確認唱和、施設運営に則した訓話実施。施設運営理念検討作業中。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩、外気浴の際や、窓越し等、ご利用者はじめスタッフにもこちらからの挨拶を奨励している。災害時の近隣マンパワー協力の依頼、納涼祭への参加呼びかけ、地域清掃実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、トピックな題材を提供し、行政サポートを受けるためのアドバイス等をしている。行政の介護駆け込み寺的ネットワーク拠点に加入。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会や民生委員のご参加をいただけるようになり、地域イベントへの参加や防災時の協力等、情報や意見の交換ができるようになった。災害時の拠点としての役割期待されている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設マンズリー届け等の際、適宜情報提供、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用による。玄関に関しては、日常生活同レベルの施錠実施。声かけにて開放。身体拘束防止の運用において、個人ならびにチームの力量に不十分な面もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政発パンフ等を施設にでも配布、ご利用希望の際には最新情報にアクセス、ご案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等でご紹介したりもしている。ご意見箱を設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守。モチベーションアップ等にさらに考えたり、話合える時間や環境づくりが必要と考える。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の回想ごとに年間を通じた研修を実施。資格取得に対する法人援助の活用、研修先情報を広報している。人員不足により研修実施できない月が発生した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人他施設職員との会合・研修・イベント、市内の業態管理者連絡会や行政主導研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するように努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なご様子を共有できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	マンスリーやイベント等のお知らせをはじめ、定期的に電話でご様子をお知らせして、来所を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報、ケアプラン等の情報環境整備によりスタッフがご利用者情報を共有しやすいよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。「身」に対し、「心」への洞察がまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状、家族の意向確認や意見把握の機会が少ない。スタッフの介護計画に対する認識や意識、関心が低い。カンファレンスの形態や頻度を改編中。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書き方はじめ視点、意義を日常的な点検指導教育するとともに、スタッフ間の情報共有手段やツールの改善を図っている。記録とケアプランの関連の関係性を明らかにする教育研修を定期的に行っている。記録書式を改定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクや趣味分野拡充等、スタッフならびにボランティアに依存度高い。運営法人他業態の情報や資産の共有活用。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行政ボランティア受入協力機関登録完了、体制づくりはできたが、活用が断片的。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話にて報告、指示受にて対応。状況報告方法や必要機材物品の所在等の理解把握を励行。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院Sw等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付しているが、実際に適応事例がまだ発生していない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めているが、定期的な教育・訓練量が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、教育ならびに訓練の機会を創設。運営推進会議で地域との防災に関する互助の意見交換等を行っている。近隣住戸に火災時等の援助協力要請。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申送りや指導、教育研修等を通じ、画一的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。詳細は施設長がご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事をする側のペースや都合が支配的になる可能性は常にある。個人の意向を全否定するのではなく、他利用者やスタッフまで含めた集団での生活であることに思いをめぐらせていただけるような声かけを励行。その日の意向を聞くこと自体はあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼間と夜間就寝時の更衣、衣服選びをご利用者とできるよう励行。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの説明や話題による食欲増進を励行している。食事準備に参加していただくことによっても食欲増進が期待できるが、展開できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食物形態等にも考慮して対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行しているが、口腔内のチェックがまだ不十分。訪問診療歯科の恒常のご利用が少人数なので、口腔点検等のスキルアップしたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導、ポータブルトイレ活用にて失禁減少に努めている。排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者ごと入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者それぞれの状況に合わせて対応。布団干しや空気入れを励行。夜間トイレ誘導頻度等も日々、状況に合わせて対応。各フロアの音の響きに留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習励行。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備。変更時には変更メモ発信。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。全体でのレク以外に個人生活史等の把握から個別関心事や経験に基づいたレク等の提案が不十分。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応。フロア状況に応じて散歩実施。地域祭礼や法人経営の畑での作物収穫、法人全体での外部施設での運動会や旅行に参加。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品メモ作成による依頼で対応。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。郵便も信書の自由・秘密保障を基本に、ご本人の状況を考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。		

2019年度

目標達成計画

事業所名 アクア東林グループホーム

作成日：2019年11月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域幼稚園や学校との交流、連携を強化する	各種行事への招待や訪問、職場体験受入を定期的に実施できるようにする	近隣ののぞみ幼稚園、市立東林間小学校等へ、取材・打診を図り、実現確保 クリスマス、節分、雛祭りを当面の当該機会とする	6ヶ月
2	13	災害時対応備蓄をを強化する	風水害、大規模地震時、施設運営を支える備蓄品を必要量確保する	運営法人で備蓄必要量を算定、配備手配中	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月